



大阪部会(第 48 回)

日 時: 2016 年 4 月 9 日(土) 18:00~20:10

場 所: 同志社大学大阪サテライトキャンパス

【内容要旨】 第 48 回の大阪部会の出席者は 15 名。

(1)まず、篠原総一代表(京都学園大学)から東京部会等最近の経済教育ネットワークの活動が報告され、石山晴美氏(東京証券取引所)から夏の経済教室のスケジュール・内容が紹介された。大阪部会出席者の登壇も多く予定されており、テーマの確認などが行われた。続いて野間(同志社大学)から、3月19日(土)に同志社大学で開催された年次大会シンポジウムの様子が報告された。

(2)次に、河原和之氏(立命館大学等)から、教材「マジで知りたい日本のあっちこっち⑥島根って、昔から人口が少なかったの」(日本経済教育センター教材検討委員会編)が紹介され、授業での使い方が解説された。部会出席者からは、地理で中国四国地方を取り上げるときに役立つと評価された。

この教材は、加藤一誠氏(慶応大学)、河原和之氏、河原典史氏氏(立命館大学)が協力して作成してきた地理と経済の融合教材シリーズの一環である。このシリーズでは、すでに世界編が7編、国内編が2編完成しており、それらに引き続き世界編が2編、日本編が6編作成されつつある。今回大阪部会に出席した加藤氏から、これらの教材を使った授業展開の進め方と、経済・地理両面からの学問的な解説を内容としたシンポジウムを開催したい、との提案があった。石山氏も交えて協議が進んでおり、東京証券取引所とも連携して、9月または12月に開催される予定である。

(3)次いで、安野雄一氏(大阪教育大付属平野小学校)から「経済分野で実践するアクティブラーニング～TPPに対する価値判断授業を通して～」という活動報告があった。小学校5年生を対象に、TPPの是非を題材に進められた活動型授業であり、事前に農業生産、工業生産、環境問題について学んだ後、地理的分野の学習のまとめとして実施された。授業には5時間があてられ、①調べ学習を通じてTPPに対する1回目の価値判断②他者との意見交流を参考に2回目の価値判断と問題点の発見③TPPの問題点の解決策をグループでさがす④解決策についてのクラス内の意見交換⑤TPPについて考えてきたことのまとめと交流、という構成で段階的に進められている。この授業を通して、生徒はいろいろな側面からTPPをながめることや、様々な立場の人がいることを理解し、調べ学習やグループ学習、他者との交流を通して、賛成と反対との間で揺れ動くことを体験する。安野氏の授業実践は部会参加者からも高く評価されており、夏の経済教室でも全会場での報告が予定されている。

(4)最後に山本雅康氏(奈良学園中高)から、「高校生が理解しにくい経済概念について」報告された。これは大学入試問題のなかから、i 需要・供給曲線 ii 信用創造 iii 比較生産費説 iv ゲーム理論に関連する問題を取り上げ解説した後、生徒の理解度を確認した結果を紹介したものであり、需要・供給と需要量・供給量の区別が難しいことや、信用創造の理解が表面的になりがちなこと等が紹介された。山本氏の報告を受けて、部会参加者から、経済理論と現実に関係している問題との関係を教師はどう理解し生徒に伝えるのかという話題や、感情的になりがちな政策論に、いかに冷静な論理と実証的な態度を加えてバランスをとるかという問題などに、議論は広がった。(文責 野間敏克)

次回開催予定: 2016 年 6 月 25 日(土)、時間は 18:00~20:00、場所は未定。